

さまざまな改革でブランド力の向上を図ってきた理工系単科大学。 スポーツ工学コースを新設し、スポーツ支援モデルの確立にも力を注ぐ

グローバル化、女子学生比率向上に向けた取り組み、学部改組等さまざまな改革でブランド力を向上させ、優秀な学生を獲得してきた芝浦工業大学。こうした施策で本年度一般入学者選抜の志願者は前年の約1.4倍、学部入学生の女子比率は30%超を達成。さらに今年新設されたスポーツ工学コース（大宮キャンパス）ではスポーツ支援モデルの確立にも取り組んでおり、まずは同学駅伝部の箱根駅伝出場を目指す。



学長 山田 純氏

- 学 長 山田 純
- 開 学 昭和2年5月
- 従業員数 683名
- 設置学部 工学部、システム理工学部、デザイン工学部、建築学部、
大学院理工学研究科
- 所 在 地 豊洲キャンパス 〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5
大宮キャンパス 〒337-8570 埼玉県さいたま市見沼区深作307
TEL 03-5859-7000 FAX 03-5859-7011

●URL <https://www.shibaura-it.ac.jp>



学校法人芝浦工業大学は、東京の豊洲と埼玉の大宮にキャンパスを持つ理工系単科大学である。工学部、システム理工学部、デザイン工学部、建築学部の4学部と大学院理工学研究科を持ち、約1万人の学生が学んでいる。「社会に学び、社会に貢献する技術者の育成」を建学の精神とし、創立以来長きにわたり数多くの優秀な人材を世に送り出してきた。

また、「世界に学び、世界に貢献するグローバル理工系人材の育成」を教育の理念に掲げ、海外留学生および留学先提携校を増やしている。他の工学系大学と比べると女子学生が多いのも特徴だ。

昨年12月には大宮キャンパスに新校舎「創発棟」が完成した。校舎前には芝生が広がり周囲に木々が立ち並ぶ。愛称である“グリーンキャンパス”の名にふさわしい佇まいで学生からも好評を博している。

「工学系のため就職率は99.5%と圧倒的です。湾岸地区の中心地・豊洲にある豊洲キャンパスと、東京駅から最寄り駅まで電車で約40分と都心からのアクセスが良い大宮キャンパス。この立地の良さも、学生からの人気ポイントになっています」（山田純学長）

同学は、これまでにガバナンス改革や学部改組な

ど不断の改革を行い、ブランド力を高めてきた。これらの施策が奏功し、本年度一般入学者選抜の志願者は前年度の約1.4倍と過去最多を更新している。

→ さまざまな改革を断行しブランド力を高める

同学の創立は昭和2（1927）年。有元史郎氏が東京府荏原郡大森町（現大田区）に前身となる東京高等工商学校を設立する。その後、芝区（現港区）芝浦町に移転。昭和4年には商業学科を廃止して東京高等工学校に校名を変更し、昭和24年に同学を設置。そして昭和41年に大宮キャンパス、平成18年（2006）年に豊洲キャンパスを開校し、その後は時代の流れを読みながら次々と改革を行っていった。

「改革に向けた取り組みが始まったのは、平成19年に柘植綾夫先生が実業界から学長になられたことがきっかけです。PDCAを回して目標を達成するなど企業の経営手法を大学運営に取り入れました」

加えて前理事長の五十嵐久也氏がガバナンス改革にも着手し、それまでの教授会中心から学長主導型の体制へと変えた。

「さまざまな意見を聞いたうえで、最後は学長のトップダウンで物事を進めるほうが合理的で意思決定も速く、スピード感をもって改革を進められるという考えです。さらに前学長の村上雅人先生がグローバル化に向けた改革に注力され、国際化が進みました」

平成26年、文部科学省は国際競争力の向上とグローバル人材の育成を図るため、世界トップレベルの大学との交流・連携を行ったり、国際化を進める大学を支援する“スーパーグローバル大学創成支援事業”を開始した。多数の大学が申請を行い、そこから37大学が選出される。芝浦工業大学は14の私学の中で唯一の理工系単科大学として採択された。

同学はグローバル化に向けて、全ての科目を英語で開講する課程の開設、留学生の受け入れ強化や海外留学を必須とするプログラムの構築、外国籍教員を増やすなどの施策を行った。そして10年後の事業終了後の事後評価で、好成績な「A評価」を獲得する。この取り組みで国際交流プログラムがいっそう発展し海外提携校が拡大、学生のTOEICの成績が伸びて英語力が向上するなどの成果があった。

さらに女子学生の獲得にも力を入れ、平成30年度入試から「公募制推薦入学者選抜(女子)」を設けたほか女子学生向けの奨学金、寮などを整備。女子高との連携にも力を入れ、優秀な女子学生の獲得に取り組む。この施策によって女子学生比率は年々向上し、今年4月入学の女子学生は学部入学生全体の30.8%を達成。これは全国の工学系学科女子学生比率の平均17.9%を大幅に上回るものであった。今後は女子学生比率50%に向けてさらに力を入れていく考えだ。こうした同学の取り組みが、この先、他の工学系大学のモデルケースになっていくに違いない。

➔ 学科制から課程制へと改革を行う

平成21年、芝浦工業大学は工学と社会の融合を図り創造的なものづくり能力を持つ人材の育成に向けデザイン工学部を設置。そして平成29年、生活環

境や都市の課題を建築視点で解決できる人材を育成するべく建築学部を設置する。さらに令和6(2024)年度より工学部を学科制から課程制へと移行し、旧来の9学科を5課程9コースに改組した。

「例えば、機械系の教育体系は長い間変わっていませんでした。情報技術が進化して社会が変わる中、大学の教育体系が昔のままでいいのか。従来の縦割りではなく分野を超えた学びを実現する必要があると考えました。学生にとっても専門分野以外を学べるメ



豊洲キャンパス (©藤井浩司/TOREAL)



キャンパス内の様子



大宮キャンパス

リットがある。そこで課程制への改革を行いました」

学科制から課程制への改組という大学にとって大規模な改革も同学はスムーズに成し遂げた。鍵となったのは、やはりトップダウン型のガバナンス体制であった。その過程において山田学長は、教職員から上がるさまざまな意見や不安、質問に一つひとつ丁寧に回答して納得してもらい合意を得ていった。そして一丸となってこの改革に取り組んだのだ。

その後、デザイン工学部も社会の要請に応じ、カリキュラムが再編された。そして今年4月より、システム理工学部を5学科から5課程11コースに改組した。

学生からは、「多様な分野を横断的に学べる」「他

コースの学びが自分の専門分野に生かせる」等の声が上がっており、工学部では約3割の学生が入学時に選択した専門以外の領域を履修しているという。教員も課程をまたいで講義が提供できるほか、講義内容の見直しがしやすくなるなど自由度が高まった。

今年、過去最多となった同学の一般入学者選抜の志願者のうち、4月から課程制を開始したシステム理工学部が前年度の約1.8倍の大幅増となったのは、こうしたカリキュラムへの期待の高さがあるのだろう。



研究の様子(左右)

たすきプロジェクトの取り組み

台車メーカー・花岡車輛と開発したカート「DANDY PORTER KAKU CROSS」

➔ スポーツ工学を駆使して駅伝部を支援する

今年3月、芝浦工業大学は「芝浦工大たすきプロジェクト」を立ち上げた。これはスポーツ工学や生理学、データサイエンス等を駆使して同学の駅伝部を強化・支援する学際研究プロジェクトだ。

大宮キャンパスの新校舎「創発棟」で走行動作解析や生理指標計測、さらに生体情報を取得するバイオセンシング技術の開発に取り組みながら、これらの研究成果を競技現場へ還元することで選手のパフォーマンス向上と安全管理を実現していく。

さらに、今年4月に改組したシステム理工学部生命

科学課程にスポーツ工学コースを開設し、健康増進に貢献できる人材を養成するとともに、スポーツ支援モデルの確立を目指していく。

「フィジカル、食、集積データなどさまざまな領域を研究して選手のパフォーマンスの向上を図っていきたい。また、スポーツを産業として育てていくことにも取り組みたいと考えています」

同学駅伝部は創立100周年となる2027年の箱根駅伝本選出場を目指し、現在取り組み強化中だ。

➔ 工科大学としてアジアでの認知度を上げる

芝浦工業大学は産学連携にも力を入れており、すでに企業との受託共同研究は300件を超える。

「“社会に貢献する”ために、積極的に産学連携に取り組み、企業の困りごとを受け付けています」

同学のデザイン工学部と台車メーカーで開発した、ホテルや商業施設仕様のスタイリッシュなデザインカートや、大手印刷会社と共同でメタバース空間におけるユーザーが使いやすいコミュニケーションの工夫やデザインの研究など、多様な分野でプロジェクトを手がけ成果をあげている。また現在は、論文数や論文の被引用数も右肩上がり伸びている。

「大学は研究機関でもありますから論文数を人事評価に取り入れながら、多くの研究者に認められる論文作成にも力を入れています」

今後は、女子学生のさらなる獲得や駅伝プロジェクトを進めながらブランド力を高め、いっそう優秀な学生を獲得していく考えだ。そして、「アジアにおける工科大学といえば芝浦工業大学と名前が挙がるよう知名度を上げていきたい」と山田学長は語る。

昨年、イギリスの出版社が発表した「THE学際科学ランキング2026」で、芝浦工業大学が日本の私立大学として3位にランクインした。今後もアジアにおけるトップレベルの工科大学に向け、よりいっそう力を注いで目標に突き進んでいく。